

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 26 日現在

機関番号：72622

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21320136

研究課題名(和文) 1910～30年代における日本の中国認識——華北地域を中心に

研究課題名(英文) Japanese Perception of China, 1910s to 1930s: Mainly on Northern China

研究代表者

本庄 比佐子 (HONJO, Hisako)

公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：50106639

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円、(間接経費) 3,810,000円

研究成果の概要(和文)：戦前戦中期における中国進出・侵略の過程で日本人が認識した華北の地域概念とその実態に関して研究を重ね、論文集『華北の発見』を出版した。明治以降の華北地域概念の変遷、いわゆる「外地」の日本社会における華北認識、当時の日本人研究者の華北概念、村落の祭祀を通してみる華北農村、農業生産からみる農村経済、「西北」と「華北」の関係、など14編の論考より成る。

以上の諸論考を通して、近代の日中関係史において「華北」に対する認識は、地理的空間についても政治・経済・社会などの諸側面から捉えた地域概念においても固定的ではなかったことを明らかにし得たと考える。

研究成果の概要(英文)：We finalized and published on the situation in Northern China as seen by the Japanese before and during the invasion called Discovery of Northern China based on a first draft from the previous year. The contents of the paper is as follows; Changes in Northern China concept after the Meiji Period, Northern China as seen by Japanese living in Northern China, Northern China and wartime Japan's study of rural China, Rural Northern China as seen in popular belief, The nature of Northern China's rural economy as seen from agricultural production, Relevance between Northwest and Northern China.

Through the above, I think I was able to reveal that the recognition of Northern China in modern Japan-China relations regarding the regional concepts that are captured in the various economic, political, and social aspects, as well as even geography, are not fixed ideas.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：華北調査 華北地域概念 近代日中関係史

1. 研究開始当初の背景

1989年以來、華北・華中・華南を対象にした戦前戦中期中国実態調査資料について共同研究を続け、従来研究のなかった興亜院および青島守備軍の行った調査について資料目録を作成し、論文集も出版した。この成果を踏まえて研究分担者・連携研究者と研究会を継続していた。また、これらの資料収集および分析作業において中国の山東社会科学院および青島市社会科学院スタッフの協力を得たが、新たに南開大学歴史学院および山西大学社会史研究センターから研究協力の内諾を得ていた。

2. 研究の目的

1910～30年代に日本の様々な研究調査機関が実施した中国華北地域における調査活動を網羅的に整理するとともに、その調査内容と同時期の中国側資料、近年の研究成果などを比較検討する作業を通じ、当該時期における華北地域の政治・経済・社会文化、並びに日中関係の特質を、歴史的にかつ総合的に考察することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 日本および中国両国に現存する日本の華北経営に関する資料の収集と、日本帝国主義の大陸経営に関する理論的研究についての分析を柱とし、以下のように役割分担をする。政治的分野：本庄比佐子・松重充浩・田中比呂志、経済的分野：久保亨・金丸裕一・富澤芳亜・吉澤誠一郎、社会的分野：内山雅生・弁納オ一・飯島渉、文化的分野：瀧下彩子・浅田進史・佐藤仁史。

(2) 資料の収集と調査は日本の関係機関だけでなく中国でも行う。

4. 研究成果

(1) 日本の各種機関が中国で行った調査の報告書及び関連資料の分析、検討の過程で、「華北」地域の概念が必ずしも明確でないことを認識した。華北の範囲とそれを規定する要

件は何か、戦前期日本の中国侵出における「北支」「北支那」と「華北」の問題などについて検討を重ねて、華北認識の形成と変遷、及びその実像という両面からの研究の成果を『華北の発見』と題する論文集として出版した。

(2) 『華北の発見』第1部。久保亨「華北地域概念の形成と日本」が明治以降の変遷を辿りつつ、大きな比重を占めたのは経済的要素と軍事的要素であったと論じ、富澤芳亜「新聞記事から見る華北認識」はその経済的側面を追っている。吉澤誠一郎「“西北”概念の変遷」は、中国における地域概念に関わる問題として歴史的に考察し、浅田進史「ドイツ・中国関係史からみた華北」はドイツ語圏における華北地域概念を政治的・経済的背景と関連させて論じている。松重充浩「朝鮮在住日本人の華北認識」と田中比呂志「戦時期華北在住日本人の華北認識」は、いわゆる「外地」の日本人社会における華北認識を検討し、瀧下彩子「旅先としての華北」が戦前戦中期日本人の中国旅行の対象地の拡大過程を検討する。

(3) 『華北の発見』第2部。内山雅生「戦時期日本の中国農村研究と華北」は当時の代表的な研究者の天野元之助・福武直・平野義太郎の華北概念を論じる。弁納オ一「農業生産からみた華北農村経済の特質」は農産物の生産状況を通して戦中期日本の認識を再検討する。佐藤仁史「民間信仰からみる江南農村と華北農村」は祠・廟での祭祀を通して華北農村を論じている。

(4) 江沛「華北の交通システム近代化と都市の変動」は19世紀末から1920年代における華北の変動を考察する。張思「村の文書からみた現代華北農村」とリンダ・グローブ「21世紀の“華北農村慣行調査”村」は現代の華北農村に関する報告で、後者は特に戦時期日本による調査村の再調査を通してその変貌を明らかにする。張利民「中国の近代華北地域

史研究の現状と展望」は中国における研究状況を紹介します。これら4編は、研究の過程で開催したワークショップとシンポジウムに招聘した研究者からの寄稿である。

(5) 近代日中関係史において華北の地域概念が固定的ではなかったことを明らかにしたことを通して、華中・華南について同様の調査・研究をもおこない、日本の中国地域認識を総合的に捉える端緒と考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計20件)

松重充浩、「朝鮮及満洲」に掲載された華北地域用語使用記事目録、近代中国研究彙報、査読有、36号、2014、91-127

弁納才一、中華民国前期冀東地区6県7ヶ村における農村経済、金沢大学経済論集、34巻、2号、2014、53-87

弁納才一、華東農村訪問調査報告(8) - 2013年9月江蘇省の農村、金沢大学経済論集、34巻、2号、2014、401-420

弁納才一、華北農村訪問調査報告(8) : 2013年8月山西省の農村、金沢大学経済論集、34巻、1号、2013、217-239

弁納才一、中華民国前期冀東地区における農村経済の概況、金沢大学経済論集、34巻、1号、2013、59-86

田中比呂志、集体化時代中国農村社会的家族：山西省L市G村社区宗族結合的展開、山西大学中国社会史研究中心編『社会史研究』、商務印書館、第3輯、2013、pp. 136-150

田中比呂志、福士由紀、華北農村訪問調査報告(4) : 2012年8月山西省P県D村、東京学芸大学紀要(人文社会学系)、64集、2013、61-70

田中比呂志、華北農村訪問調査報告(3) : 2011年8月山西省P県D村、東京学芸大学紀

要(人文社会学系)、64集、2013、53-60

浅田進史、ドイツ統治期の青島経済にみる「公共」と「非公共」 - 山東農産品輸移出の流通を中心に、高嶋修一、名武なつ紀編『都市の公共と非公共 - 20世紀の日本と東アジア』、日本経済評論社、2013、23-56

弁納才一、華北農村訪問調査報告(7) : 2012年8月山西省の農村、金沢大学経済論集、33巻、1号、2012、289-307

弁納才一、華北総合調査研究所の刊行物について、近代中国研究彙報、査読有、34号、2012、103-132

田中比呂志、華北農村訪問調査報告(2) : 2009年8月12月山西省P県村、東京学芸大学紀要(人文社会科学系II)、63輯、2012、101-112

田中比呂志、高河店社区における宗族結合の展開 - 茹姓を中心として、三谷孝編『中国内陸における農村変革と地域社会』、御茶の水書房、2011、195-219

弁納才一、華北農村訪問調査報告(4) : 2010年8月山西省P県の農村、金沢大学経済論集、31巻、2号、2011、193-208

弁納才一、華北農村訪問調査報告(3) : 2009年12月山西省P県の農村、日本海域研究、査読有、42号、2011、113-121

弁納才一、華北農村訪問調査報告(2) : 2008年12月山西省太原市・平遙県・霍州市の農村、北陸史学、査読有、57号、2010、1-17

田中比呂志、華北農村調査報告(1) : 2009年12月山西省P県D村、東京学芸大学紀要(人文社会学系)、62集、2011、125-132

内山雅生、発展中の現代中国農村社会史研究、山西大学学报(哲学社会科学版)、11号、2010、pp.143-144

久保亨、關於戦時華北工業普查、城市史研究(天津社会科学院等) 査読有、26輯、2010、pp. 59-80

浅田進史、日独青島戦争におけるドイツ總督府の防衛計画「青島要塞に関する覚書」:

植民地社会における総力戦への道、近代中国
研究彙報、査読有、33号、2011、109-120

〔学会発表〕(計2件)

吉澤誠一郎、近代天津の貿易とその後背地
- 羊毛輸出を中心に、東アジア都市における
集団とネットワーク - 伝統都市から近現代
都市への文化的転回 -、2013年12月6日、
大阪市立大学

浅田進史、戦時下の青島経済(1938~1945
年):日本の再占領と物資流通を中心に、歴
史問題研究所(韓国)・慶応義塾大学東アジ
ア研究所共同国際シンポジウム「日本帝国主
義勢力圏都市の諸問題と社会変動」、2010年
8月18日、韓国・歴史問題研究所

〔図書〕(計2件)

本庄比佐子、内山雅生、久保亨、東洋文庫、
華北の発見、2013、355

浅田進史、東京大学出版会、ドイツ統治下
の青島:経済的自由主義と植民地社会秩序、
2011、257

6. 研究組織

(1)研究代表者

本庄 比佐子(HONJO, Hisako)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:50106639

(2)研究分担者

内山 雅生(UCHIYAMA Masao)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:30151905

久保 亨(KUBO Toru)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:10143520

(3)連携研究者

浅田 進史(ASADA Shinji)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:30447312

飯島 渉(IIJIMA Wataru)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:70221744

金丸 裕一(KANEMARU Yuichi)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:80278473

佐藤 仁史(SATO Yoshihumi)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:60335156

田中 比呂志(TANAKA Hiroshi)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:90269572

瀧下 彩子(TAKISHITA Saeko)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:50370177

富澤 芳亜(TOMIZAWA Yoshia)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:90284009

弁納 才一(BENNOU Saiichi)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:90272939

松重 充浩(MATSUSHIGE Mitsuhiro)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:00275380

吉澤 誠一郎(YOSHIZAWA Seiichiro)

(公財)東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号:80272615